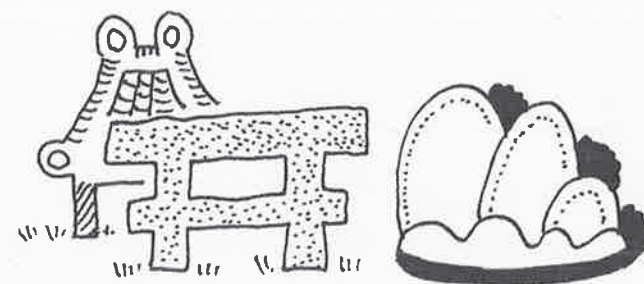


155 文徳マサー（へ）（カ比べ）

文徳はですね、糸満の方だが、この人は非常に品行方正で、空手、武術はわかるけれども、喧嘩は絶対にやらない。この本部御殿もとぶうどうんの人は喧嘩好き。それで、この本部御殿がですね、文徳というこの人をわかつてですね、那覇から後について、白銀堂というところがありますね、糸満に。そこに来てから、文徳という人の肩の上に飛んで上ったらしいですよ。そして、この本部御殿サールメーという人が、

「君ね、私をね、投げたらね、君の顎が危ないよ」と。ここへ上つて言うたらしいですよ。文徳という人はですね、力持ちです。もうなんだか、足を捕まえてですね、これ、両方に引つ張つて、白銀堂の岩の上に置いたらしいです。それからもう、後は振り向かないでもう、すぐ逃げて行つたらしいですよ。

文徳という人は非常に品行方正で、立派な方だったそうです。



字武富 長嶺和男